

新設中学校の 予定地発表

安さ優先の矛盾 次々

新設小学校（大畔地域）の基本設計に対する意見交換会が10月2日まで実施されています。また新設中学校の予定地も発表（裏面）：安さが何より優先されるなか、矛盾が次々噴き出す事態に。

土地だけではなく、設計も安さ追求か

新設小学校について、①当初18学級を想定した小山小、当初24学級を想定したおおたかの森小の経験から、新設小学校はトイレの数など児童の生理・生存権に関わる設備はしっかりと対応すべきだがどうか？②プールの屋根設置など授業数確保や義務教育の保障をすべきだがどうか？③学童保育の設置場所など事業費削減が優先されていないか？と小田桐市議は質問しました。

工夫したい。水道の蛇口も冷水器も不足なく計画する」「プールの屋根は設置し、授業数を確保したい」と答弁。学童保育の設置場所に問題はないとしながらも、「教員のプロジェクトチームも入れた施設を計画する」と回答しました。

市教育委員会は、「男女比も考慮し、48学級を想定する新設小は標準以上のトイレを確保し、混雑緩和に

小田桐市議は、「新設小は第1期工事分（30学級）でとどめ、別の場所にもう1校の学校建設を」と提起しつつ、冷水器（既存校平均、児童100人に1台）への積極的対応や校庭芝生化、学童保育の単独施設化等、学校環境改善案を求めました。

西初石中学校まで650メートル

新設中学校について、小田桐市議は、等を質しました。

「新設小同様に、生徒が多くいる地域というよりも、安い土地を優先した結果、西初石小中学校に近くなった。学区次第で市民からの苦情が再熟する恐れがある」「登下校に自転車通学の割合も高くなる」と指摘。生徒数の想定

市教委は、西初石中学校とは直線距離で650メートルとし、自転車通学の割合が多くなること、開校時（H34年4月）の最大生徒数は677人・20学級、H36年は910人・26学級を想定していると答弁しました。

『安さ』しか考慮せず、新設学校の予定地を探した結果、子どもの居住地と離れた学校建設、コミュニティ形成への支障にとどまらず、上水道は太い配水管に入れ替え、下水道は「整備しない」という市担当部の決定を撤回し、地域には受益者負担も求められない。上下水道は最大利用人数を想定し建設するのに、それは秘密：場当たり政治では、矛盾は増え、犠牲者は子ども達です。



流山市議会議員

小田桐たかし